

「考えるスイッチ」

樹々もすっかり葉を落とし、落葉が冷たい風に舞う光景は、まさしく師走の到来を感じさせます。先週金曜日から始まった定期テスト4も、三日前で終了となりました。11月を振り返ってみると、2日(木)には生徒会立会演説会が実施され、生徒会本部が新体制でスタートし、口丹新人大会では、9運動部活の内、優勝4部、準優勝2部、3位入賞1部活、近畿大会出場4名という成績(裏面参照ください)をはじめ、様々な場面での生徒たちの活躍を見せてもらいました。

さて、11月号の学校だよりには、「生成AI(人工知能)が発達した時代には『質問をする力』『問いを立てる力』こそが必要とされている能力である」という話を書きました。

その後、今年3月22日にWBC(ワールド・ベースボール・クラシック)で日本チームを3大会ぶりに世界一に導いた栗山英樹優勝監督の「人を育てる言葉」についてのインタビュー記事に出会いました。「選手の聞く耳を育てるために、言葉の伝え方にも工夫しています。」との記事でした。そしてそこには、次のような具体的な例が紹介されていました。

野球で1アウト、ランナー1塁の時、1塁のコーチが走者に「1アウトだから、ライナーバック(ダブルプレーを防ぐため、ライナー性の当たりなら塁に戻る)だぞ。」と伝えて、選手は「はい。」と答えました。しかし、いざ打者がライナーを打つと、走者は飛び出してダブルプレーとなってしまうことが、よくあるそうです。コーチは「きちんと説明して、指示をしたのに…」と言いますが、栗山氏は「これでは相手に言葉を伝えたことにはならない。」と言います。

「私なら走者に『今、何アウト?』と聞きます。走者が『1アウトです』と答えたら、続けて『じゃあどうするの?』と尋ねて、『ライナーバックですね』と走者が回答することを待ちます。答えを自分自身で導き出した方が、はるかに言葉が腹落ちするからです。どうすれば相手に伝える言葉を行動につなげることができるのか、成長の糧につなげることができるのか。指導者は、それを日々模索するべきだと思います。」

この話を讀んだ後に、この内容と同じような光景に出会いました。口丹波新人サッカー大会の日、試合前に生徒を激励しようとベンチへ行った時のことです。顧問の先生がホワイトボードに色のついた磁石を選手とボールに見立て、作戦板を見せながら、受け答えをしています。「相手のセンターバック(守備の選手)の足下にボールがある。フォワード(攻撃の選手)は、どうすべき?」と生徒に問うと、生徒たちがロ々に「相手との距離を詰める。」「パスコースを防ぐ。」「ボールを取りに行く。」「そうしたら、相手のセンターバックは、どうする。」と先生。「空いた味方にパスを出す。」「相手が空いた味方にパスをするなら、何ができる。」と先生。「パスコースの空いた選手へパスされるボールを狙う。」「パスコースの空いた選手のボールを取りに行く。」とロ々にそれぞれのポジションの生徒が回答しています。更に、先生が「じゃあ、センターバックの二人の距離が離れていたら?」「相手の近くへ飛び込まず、距離をとる。」と、以上の様なやり取りが、5分程度の試合前のミーティングで行われています。

子ども(生徒)を成長させるためには、指導者の「問う力」がとても大切であることを実感すると共に、WBCで世界一に導いた栗山監督が心がけておられることを、本校の先生方が日々されていたことが誇らしく、嬉しい気分になりました。

「人は教えてもらえと思った瞬間、『考えないスイッチ』が入る。」これは、青山学院大学の佐伯胖(ゆたか)教授のお言葉で、10月25日(水)実施の校内授業研究会のご講演において、ご紹介いただきました。そして、その講演では教師の「授業観の転換」が求められており、「教師が『教える』授業から学習者が『学び取る』授業へ」の転換をする必要があるとご示唆いただきました。そのことを踏まえて、12月6日(水)には校内授業研究会を実施させていただく予定です。この研究会を通じて、自力で正解を導き出すことのできる「質問する力」「問いを立てる力」を、先生方と協議しつつ、生徒たちに身につけさせていきたいと考えております。今後とも、本校の教育活動にご理解とご協力の程よろしくお願いいたします。

運動部各種大会 文化・芸術で好成績

大会等主な結果

●ロ丹波新人大会

◎サッカー 優勝

◎ソフトボール 優勝

◎バスケットボール

○女子の部 優勝

○男子の部 準優勝



◎ソフトテニス

○女子の部

・団体の部 優勝

・個人上級の部 優勝 本多華莉愛・小川陽葵^{ペア}

準優勝 石垣優衣奈・國嶋瑠愛^{ペア}

・個人初級の部 優勝 春畑音絢・奥村灯里^{ペア}

第3位 寺本柚月・堂本紗良^{ペア}

○男子の部

・団体の部 準優勝

・個人上級の部 第3位 岡山悠吾・三河珀^{ペア}

第3位 荒谷奏汰・相馬喜京^{ペア}

◎バレーボール 女子の部 第3位

◎剣道 第3位 井田勘太

◎卓球 男子個人の部 ベスト16 阪口雄祐
進戸奏杜

●京都府中学校秋季陸上競技大会

・男子110mH 第1位 野瀬大翼

・3年男子100m 第2位 寸田蓮人

●京都府中学校ソフトテニス新人大会

ベスト16 本多華莉愛・小川陽葵^{ペア}

石垣優衣奈・國嶋瑠愛^{ペア}

※近畿中学生ソフトテニス選抜インドア大会出場

(12月27日滋賀県立長浜バイオ大学ドーム)

[ロボットの製作やプログラミング]

●ロボレイブオオサカ 大阪大会2023

・アメージングチャレンジ中学生の部
準優勝 難波花雨・宇都宮愛莉・服部恵奈

●ロボレイブオオサカ オープン大会

・アメージングチャレンジ中学生の部

優勝 難波花雨

●京都丹波美術工芸教育展

・佳作 中島琴美 佐野結杏 仲里佑大

●愛鳥週間ポスターコンクール

・佳作 中井光心 中島和奏

●全国交通安全運動

・京都府亀岡警察署より感謝状 吹奏楽部

1年生福祉体験学習

11月10日にアイマスク体験、車椅子体験や手話講座、盲導犬ユーザーの方による講話を聞くなどの福祉体験学習を行いました。また、11月16日には耳の不自由なサインダンサーの4Disabilitiesさんに来ていただき、「耳だけでなく目でも聴ける新時代の音楽」として、手話を交えた音楽を楽しませていただきました。これらの学習を通して、障害への理解を深め、バリアフリーやノーマライゼーションの社会のあり方について考える機会となりました。



国際理解教育

「世界の子どもたちの

現状を知る」

11月17日(金)に青年海外協力協会 JOCA 大阪から JICA 海外協力隊事業で開発途上国に派遣されていた元隊員の畠山恒さんにお越しいただき、派遣中の体験談を中心に講演をしていただきました。海外の同年代の子どもたちが置かれている現状を知り、自分たちに何ができるかを考える機会となりました。



12月行事予定

1日 睡眠講話

4日, 5日 2年生幼児ふれあい体験

6日 午前授業

11日 あいさつ運動

12日 フッ化物洗口

13日 生徒総会

15日 三者面談(～21日)

19日 フッ化物洗口

22日 終業式

28日～学校の業務を休止する日(～1/4)

